

おきぎんふるさと振興基金

活動報告書

「芭蕉紙生誕 300 年展」

染織工房バナナネシア代表

福島泰宏

「芭蕉紙生誕 300 年展」開催の報告

企画展開催の目的

1. 2012 年頃、かつて琉球王朝時代の公文書に使われた芭蕉紙（古文書）の修復用の製作依頼を県内の 2 カ所の修復工房から受けたが、当時、当工房で漉いていた芭蕉紙と古文書の修復用の紙は全く紙質が異なり、戸惑いながら試作を重ねた。修復方法の違いにより納品形態も異なり、M 工房の注文には応じられたが、S 工房の要望には当時十分に対応することが出来なかった。以来、古文書の修復用の芭蕉紙の製作を念頭に日々努力を重ねてきた。これらの資料をまとめ展示発表をする。

具体的には、イトバシヨウの栽培から、倒し時の判断、輪層部分による差異、バサケの処理の仕方、灰汁の加減、炊き方、漉き方、紙の色調など様々な要素を組み合わせ、様々な芭蕉紙が出来る事を提示する。

2. 1717 年に沖縄で初めて作られた芭蕉紙。2017 年は芭蕉紙生誕 300 年の節目の年。あらためて、多くの人々に芭蕉紙について知ってもらう。
3. 芭蕉紙抄造に使われた材料が示されている八重山「紙漉方並茶園方例帳」1854 年、この中で書かれている‘ひんかつら’に刮目し、従来の通説（ネリとして使われたと思われるが、植物は特定できない）とは異なる仮説（‘ひんかつら’はネリではなくイトバシヨウと同じように繊維材料として用いられた植物でヘクソカズラでないか）を立て八重山地方で漉かれていた芭蕉紙を復元する。（追加項目）

展示概要

期日： 2018 年 1 月 13 日から 1 月 21 日（旧暦では 2017 年） 1 月 17 日休館

開催場所： 南風原町立南風原文化センター

展示内容：1 芭蕉紙の歴史年表

2 イトバシヨウの輪層毎に紙を漉き分け、色の異なりを展示

3 イトバシヨウの断面を示し、芭蕉紙に使われる部分を表示

4 芭蕉繊維の配合（引きカス、紡いだ残糸、筋の取り具合など）を組み合わせ様々な紙が出来る事を展示

5 製作工程の説明

6 ‘ひんかつら’がヘクソカズラではないかという仮説を立て、実際に漉いた紙を展示

7 染織工房バナナネシアの作品の展示、販売

展示会開催効果

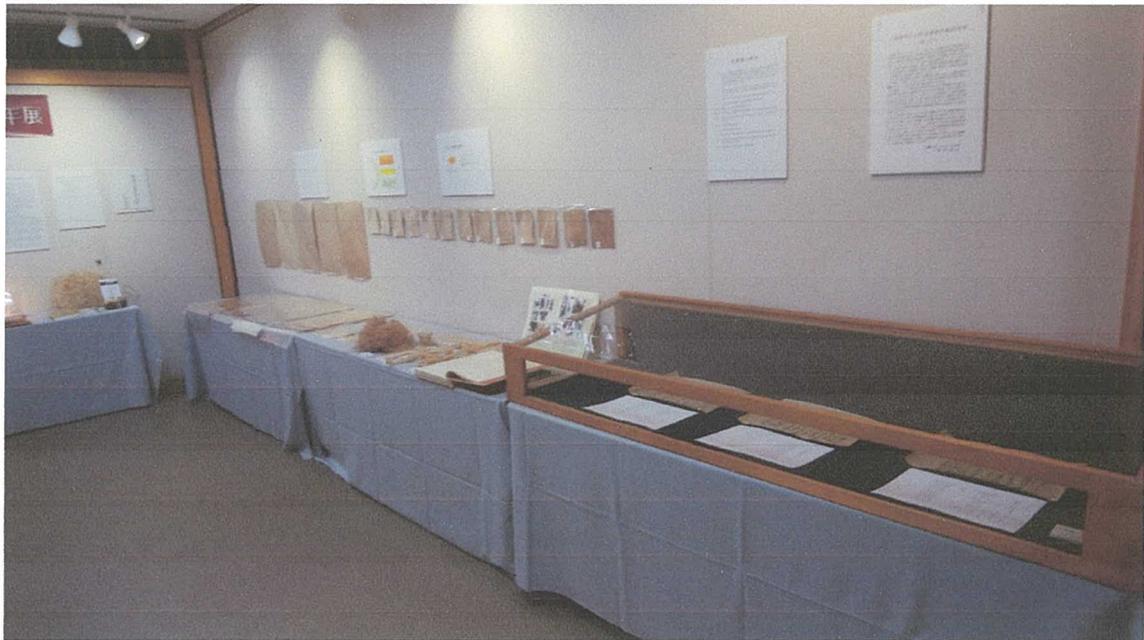
- ・芭蕉紙を初めて知った人が多くいた
- ・画家、書家、歴史学者などの専門家の方々に芭蕉紙に興味を持って頂いた
- ・県内の紙修復工房から古文書修復用の製作依頼があった。

反省点

- ・開催日時や開催場所が急遽決まり、告知が十分でなかった
- ・芭蕉紙の古文書修復に関わる行政機関の専門家の方々に観て頂けなかった
- ・仮説に対する専門家のコメントがもらえなかった

展示会の写真







沖糸見タイムス 2018年1月15日(月)

琉球国の芭蕉紙再現

南風原 生誕300年展 21日まで

【南風原】琉球王国の公文書として使われてきた紙を、独自の推測を基に再現した「芭蕉紙生誕300年展」が13日、南風原文化センターで始まった。今帰仁村謝名で芭蕉紙や芭蕉布を製造する染織工房バナナネシアの福島泰宏代表(61)が、2012年から取り組む研究成果を発表している。21日まで。入場無料。

琉球王国では行政文書の需

要増に伴い、紙の原材料だったコウソウなどが不足。王府は1717年、芭蕉を使った紙を下級武士に命じて作らせた。しかし、琉球処分後に衰退。明治時代に製造が途絶えたとされる。

福島さんは芭蕉布を織りながら、2001年から芭蕉の繊維のみを使った紙も作ってきた。12年に古文書修復用の紙の作成依頼があったことか



芭蕉紙生誕300年展で、製造方法などを説明する福島泰宏さん(左) 13日、南風原文化センター

ら、王国時代の紙の研究を始めた。

王国時代の文書などを基に、芭蕉だけでなくヘクソカズラの繊維も使っていたと推測。芭蕉だけのものと比べしっとりとした感触で、防虫効果もあったとみている。

展示会では、ヘクソカズラを加えた試作品のほか、芭蕉布や芭蕉紙のはがきなども置いてある。福島さんは「仮説を基にすいて作った紙を見てほしい。また、芭蕉紙そのものも知ってもらえたら」と来場を呼び掛けている。

南風原町で 「芭蕉紙」展

21日まで、文化センター

【南風原】琉球王府時代の古文書に使われていた芭蕉紙の復元に取り組み染色工房バナナネシア（今帰仁村）が主催する「芭蕉紙生誕300年展」が13日、南風原町の南風原文化センターで始まった。バナナネシアの福島泰宏さんが研究、製作したさまざまな芭蕉紙や材料が説明と共に展示されている。オリジナル芭蕉紙を使った商品の販売もある。入場無料。21日まで（水曜休館）。

沖縄で最初に芭蕉紙が作られたのは、記録によると



ヘクソカスラを混ぜて作った芭蕉紙を手にする福島泰宏さん
13日、南風原文化センター

1717年。それまで使われていた紙の原料不足と、行政での需要が増えたことなどを背景に、4人の下級士族が開発したとされる。

（取材・文：山崎あづさ、写真：山崎あづさ）

展示では、芭蕉紙の材料が記された1854年の古文書に書かれた「ひんかつら」という植物に着目。福島さんは、八重山の言葉で「ピンツァリアカスラー」と呼ばれるヘクソカスラが「ひんかつら」ではないかとの仮説を立て、芭蕉とヘクソカスラを混ぜた芭蕉紙を製作し、展示している。福島さんは「芭蕉紙についてぜひ多くの人に知ってもらいたい」と来場を呼び掛けている。問い合わせは福島さん ☎090（9564）4671。



芭蕉紙 生誕300年展

2018年
1/13 (土) ~ **1/21** (日)
9:00~18:00 (*1月17日(水) 休み)

芭蕉紙抄造に使われた材料が示されている唯一の古文書八重山「紙濃方并茶園方例帳」(1854年)に書かれている「ひんかつら」に刮目。材料から製造工程において、新たな仮説を立て、当時の芭蕉紙を復元。

入場料 無料

主催 染織工房バナナネシア

1992年より芭蕉布、2001年から芭蕉紙、紅型を製造。芭蕉布の製造技術の継承、及び紅型や芭蕉紙作りの体験等を通じ地域に根付いた物作りを目指し、沖縄の工芸発展に努めている。

当工房の芭蕉紙は、芭蕉布の製造工程から得られる製紙原料を使用した、繊維の多い芭蕉100%の紙である。約6年前、かつて琉球王府時代の公文書に使われていた古文書修復用の芭蕉紙の製作依頼を受け、以来、当時の芭蕉紙復元を念頭に日々努力を重ねている。

<連絡先>住所：沖縄県今帰仁村字謝名 697-3
電話：090-9564-4671 福島泰宏

開催
場所

南風原町立
南風原文化センター



沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武 2 5 7 番地 TEL: 098-889-7399

当工房が製作するオリジナル芭蕉紙を使った商品の展示、販売も同時開催

助成財団：(公財団) おきぎんふるさと振興基金

協力：南風原町立南風原文化センター